

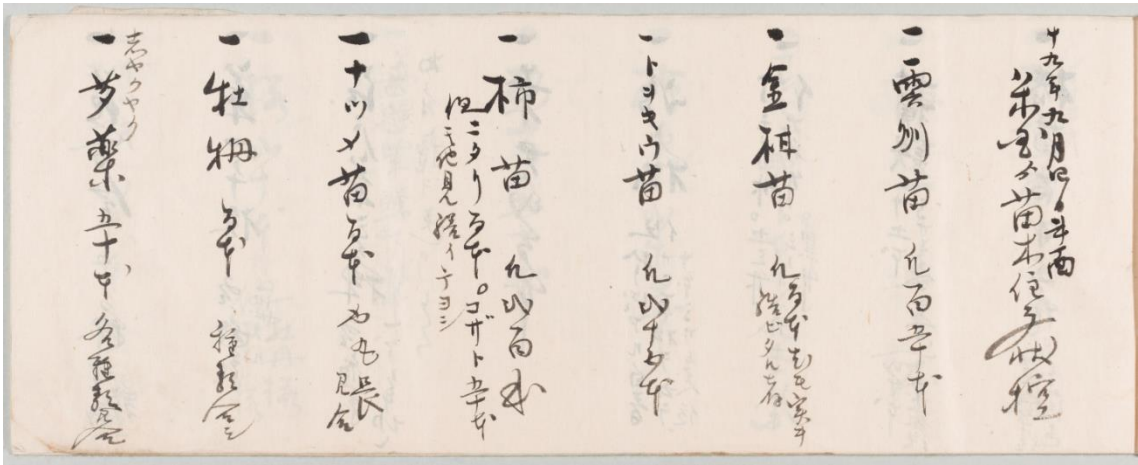
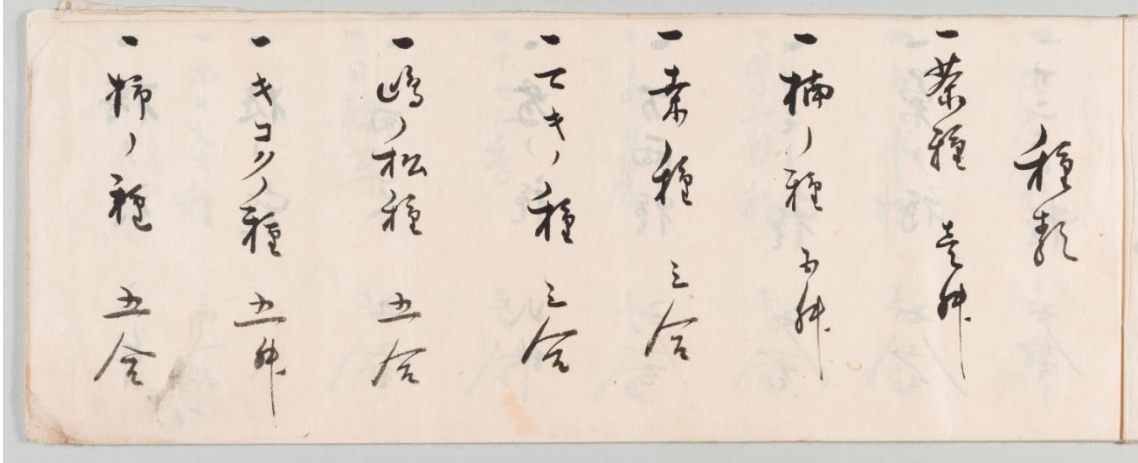
# 那賀地方の移民 —サンフランシスコからの注文書—

明治時代、和歌山県は世界各地へと海外移住者を輩出した「移民県」でした。那賀地方出身の堂本 誉之進は花きの栽培をアメリカ合衆国のサンフランシスコで行い、財を成しました。1886(明治 19)年に和歌山の兄に送った種や苗木の注文書から、明治時代の移民の歴史についてみていきます。

## 1 資料

【資料】 米国桑港工諸苗種類贈ル控

[\\* 資料全体のデジタル画像を見る](#)



【翻刻】 ※下部

|                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 十九年九月四日書面<br>米国方苗木注文状控 |                   |
| 一 雲州苗                  | 凡百五十本             |
| 一 金柑苗                  | 凡百本 尤モ実ヲ<br>結ビタル者 |
| 一 トヲキウ苗                | 凡式十五本             |
| 一 柿苗                   | 凡式百本              |
| 但ニタリ百本。コザト五十本          |                   |
| 其他見繕イテヨシ               |                   |
| 一 ナツメ苗                 | 百本 内丸長見合          |
| 一 牡丹                   | 百本 種類合シ           |
| 一 シヤクヤク                |                   |
| 一 芍薬                   | 五十本 各種類見合         |

【翻刻】 ※上部

|         |    |
|---------|----|
| 種類      |    |
| 一 茶種    | 壹升 |
| 一 楠ノ種   | 五升 |
| 一 桑種    | 三合 |
| 一 マキノ種  | 三合 |
| 一 島ノ松種  | 五合 |
| 一 キコクノ種 | 五升 |
| 一 柿ノ種   | 五合 |

### (1) 移民の時代

#### ①世界の移民

19世紀後半、列強諸国による植民地の拡大と第2次産業革命<sup>1</sup>の進展により世界の一体化が進み、地球規模での移民が急増しました。工業化が進む欧米諸国は労働力を求め、相対的に貧しい位置に置かれている国・地域の人々は賃金を求めたことにより、多くの移民が生まれました。アメリカ合衆国では、廃止された奴隷労働の代替として日本人を含むアジア系移民が低賃金で働いていました。

#### ②和歌山からの移民

日本では、1868(明治元)年に労働を目的とした集団的な移民が始まり、日本人153人がグアムやハワイへ渡りました。その後、日本の国内外を問わず北海道、ハワイ、北米、オーストラリア、台湾、朝鮮、中南米、満洲等へと多くの移住者が生まれました。

和歌山県から海外へと移住する者の動機は、一攫千金を目指した積極的要因や生活苦による消極的要因など様々ですが、和歌山県は、ハワイ、北米、オーストラリア、南米などへの多くの移民を生みしました。和歌山県から北米への移民は、那賀地方が始まりとされます。

### (2) サンフランシスコへ渡った堂本兄弟

那賀地方の地主であった堂本家は、1883(明治16)年の米不作の影響を受け、土地を売却し経営を縮小していました。翌年、堂本家の次男<sup>たかのしん</sup> 誉之進、三男<sup>けんたろう</sup> 兼太郎はアメリカ合衆国・サンフランシスコへと渡り、現地の富豪のもとで庭園の管理に従事しました。その時、日本産の花きが現地で観賞される様子を見た<sup>たかのしん</sup> 誉之進は、和歌山に住む兄<sup>きちのしん</sup> 吉之進に大量の<sup>しゅびょう</sup> 種苗を送るよう伝えました。1887(明治20)年、彼らは空き地を借り、<sup>なえぎ</sup> 苗木の栽培と販売を行うようになりました。1895(明治28)年には「堂本兄弟<sup>どうもときょうだいうえきしやうかい</sup> 植木商会」を開設し、日本人花園業者の先駆けとなりました。



左から堂本兼太郎・誉之進・元之進  
(出典：『加州日本人花園業発展史』)

その後、那賀地方の村落の人々が堂本兄弟を頼り、高い賃金を求めてサンフランシスコへと移住しました。彼らは稼いだお金を故郷へと送金し、地域経済を支えました。

### (3) 日本人移民排斥

一方、北米への移民の急増は、先住者との摩擦を生じさせ、労働者の間で賃金水準を低下させているとして不満が高まりました。後に彼らはこの不満による暴動や排斥法などの人種差別を引き起こします。1913(大正2)年にカリフォルニア州では、外国人土地所有権禁止と借地を3年間以内に制限する、カリフォルニア州土地制限法が制定されました。そして、アメリカ合衆国全体では1924(大正13)年に日本人移民を全面的に禁止した移民法が制定されました。

### (4) 本資料について

本資料は、1886(明治19)年に<sup>たかのしん</sup> 誉之進が和歌山に住む兄<sup>きちのしん</sup> 吉之進に送った種や苗木の注文書です。その中には、多くの種類の種や苗木、それらの数量が記されています。また「十九年八月六日北大井郵便局へ出ス」や「佐の<sup>より</sup>方<sup>にぐるま</sup> 大阪サコバ荷車」、「神戸税関<sup>はとぼ</sup> 通波止場内」などと記され、種は那賀地方の郵便局から送付、苗木は泉佐野から大阪雑魚場へと荷車で運んだ後に蒸気船に積み替えて神戸港に到着し、船便で送付していたことがわかります。また、「運賃手数料領事館手数料他二〇円」とあり、輸出料金として20円がかかっていたことがわかります。

<sup>1</sup> 1870年代から始まった、軽工業から重化学工業・電機工業・石油産業へと産業の中心が変化したこと。

### 3 活用のポイント

- **中学校社会〔歴史的分野〕の場合**

明治時代に身近な地域である和歌山から海外へと渡って活躍した人々がいることを知り、堂本<sup>たかのしん</sup>誓之進を含む和歌山からの移民の歴史を調べたりまとめたりする活動で活用できます。

- **歴史総合の場合…B 近代化と私たち**

B(1)近代化への問いの「移民」に関する資料として活用できます。「なぜ 19 世紀後半に移民が急増したのだろうか?」、「なぜ堂本兄弟はサンフランシスコへと移住したのだろうか?」などと問いかけることで、当時の世界の情勢と和歌山での動きが一体になっていたことに気付き、移民に関する問題について関心を持ち、疑問に思ったことや追究したいことを考えるきっかけになります。また、B(3)国民国家と明治維新や B(4)近代化と現代的な諸課題の授業での資料としても活用できます。

- **日本史探究の場合…D 近現代の地域・日本と世界**

D(4)現代の日本の課題の探究の学習のときに、例えば「歴史の中で人々の移動はどのように変化してきて、どのような問題が生まれたのだろうか。また、今後これらの問題を解決するために私たちが考えるべきことや取り組むべきことは何だろうか。」と課題を設定することができます。その際、身近な地域である和歌山の人々が海外に移住し、直面した課題について学ぶことにより、現代の移民・難民問題について考えるきっかけになります。

- **世界史探究の場合…D 諸地域の結合・変容**

欧米を中心とする国際的な分業体制が生まれ、その一例として、身近な地域である和歌山からアメリカ合衆国へと労働力が移動していたことや貿易が行われていたことがわかります。また、D(3)帝国主義とナショナリズムの高揚の授業の際、解説シートを用いてアメリカ合衆国で移民排斥運動が盛り上がり、カリフォルニア州土地制限法が制定されたことを学び、ナショナリズムの高揚の負の側面について考えることができます。

### 4 出典

- ・当館所蔵 堂本家文書貿易資料 整理番号 9085-54 「米国桑港エ諸苗種類贈ル控」  
※文書群の詳細については、[和歌山県歴史資料アーカイブ「堂本家文書貿易資料（和歌山県立文書館所蔵） 解題」](#)をご覧ください。

### 5 関連資料・ウェブサイト等

- ・[移民資料室（和歌山市民図書館）](#)
- ・[和歌山県歴史資料アーカイブ「移民資料」（和歌山県立文書館）](#)
- ・[「文書館だより」第 10 号（和歌山県立文書館）](#)
- ・[JICA 海外移住資料室](#)

### 6 参考文献

- ・和歌山県史編さん委員会編『和歌山県史 近現代 1』和歌山県、1989 年
- ・打田町史編さん委員会編『打田町史 第 2 巻 史料編 II』打田町、1984 年
- ・加州花草市場『加州日本人花園業発展史』1929 年
- ・東悦子編『移民県和歌山における移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承～那賀地方における移民の記録～』2021 年